

平成 26 年度
横須賀美術館 事業計画書

～より多くの方に愛される美術館に～

平成 26 年（2014 年）6 月

平成 26 年度 横須賀美術館事業計画

～より多くの方に愛される美術館に～

横須賀美術館は、平成 19 年度の開館以来、美術を通じたさまざまな交流の機会を提供し、市民の美術に対する理解と親しみを深める事業を展開し、のべ 170 万人を超える来館者をお迎えしてまいりました。

美術を通して文化の向上を図るという使命を果たし、さらに多くの方々に愛される美術館になりたいとの願いを込めて、平成 26 年度の実業計画を策定いたしました。

子どもたちがさわって遊んで美術を身近に感じることができる「キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展」、日常に欠かせない「食」をテーマとした「おいしいアート展」をはじめとする展覧会事業、多様なテーマによるワークショップやギャラリートークなどの教育普及事業を通じて、また、観音崎という自然に恵まれた地域にある美術館の魅力を PR することで、誰でも楽しめる親しみやすい美術館をめざした事業を展開してまいります。

◎横須賀美術館の使命・目標

I 美術を通じた交流を促進する

- ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。
- ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

II 美術に対する理解と親しみを深める

- ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。
- ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。
- ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する

- ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。
- ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。
- ⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って、効率的に運営・管理する。

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

1 展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要が企画展であることは間違いありません。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスのとれた企画展を実施します。

【展覧会及び観覧者数（見込）】

展覧会名	会期	観覧者数(人)	備考
海辺のミュージアムでみる日本画展	4/1-4/13	2,500	H25 事業
アール・ヌーヴォーとアール・デコ	4/26-6/29	17,000	
キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展	7/12-8/31	22,000	
おいしいアート展	9/13-11/3	17,000	
小林孝亘展	11/15-12/23	12,000	
第67回児童生徒造形作品展	1/10-1/26	15,000	
生誕110周年 海老原喜之助展	2/7-3/31	11,000	
所蔵品展だけの期間	上記以外	5,500	
計		102,000	

2 広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
- ・公共交通機関への広告掲出
- ・ホームページ、ツイッターを活用した情報発信、フェイスブック導入検討

(2) イベント開催など企画展以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート、マジックワークショップの開催
- ・年間パスポート、前売券の販売

(3) 外部連携の推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信
- ・海外からの観光客誘致の検討、仕組みづくり

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
- ・観覧ツアーなど美術館活動による交流の実施

(4) 団体集客の推進

- ・旅行会社への団体ツアーの企画提案
- ・ウェルカムトークの実施

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・ドラマや映画、カタログや雑誌等の商業撮影の受入
- ・撮影者側のニーズに対応した誘致の実施

【達成目標】 年間観覧者数 102,000 人

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成 12 年 6 月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を 10 万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き 10 万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を 10 万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。
- ・ここ数年の観覧者実績は、観覧者見込み数を超えることができなかったため、今年度の達成目標は、観覧者見込み数の 102,000 人とします。

年間観覧者見込みに対する達成状況 (単位：人)

年度	平成 23 年度	平成 24 年度※	平成 25 年度※
見込み (A)	105,000	100,000	104,000
実績 (B)	108,985	97,535 (123,203)	101,841 (107,761)
達成率 (B/A×100)	103.8%	97.5%	97.9%
(参考)来館者数実績	224,109	242,229	220,696

※ ()内は、特別企画展の観覧者数を含んだ人数。

	平成 24 年度	平成 25 年度	合計
L' Anniversary EXHIBITION	23,226 人	—	23,226 人
70's パイプレーション	2,442 人	5,920 人	8,362 人
合計	25,668 人	5,920 人	31,588 人

※ 観覧者数・・・観覧券の発券数を根拠とした計算値。

来館者数・・・本館の 2 か所の出入り口に設置しているオートカウンターによる計測値。

【実施目標】 広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールする。

[目標設定の理由]

- ・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
- ・市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定しました。

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

平成26年度より、活動の実態および最近のボランティアからの要望を反映して、活動内容を次の5つに整理しました。

- (1) ギャラリートークボランティア 年 60 日程度
所蔵品展のギャラリートークを行います。
*研修の受講が必要です。
- (2) 小学校鑑賞会ボランティア 年 60 日程度
小学校美術館鑑賞会で来館する小学6年生の受入れ、鑑賞補助をします。
*研修の受講が必要です。
- (3) みんなのアトリエボランティア 年 12 日程度
障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。
- (4) プロジェクトボランティア 年 30～40 日程度
ボランティアイベントの企画・準備・実施をします。
- (5) プロジェクト当日ボランティア 年 6 日程度
プロジェクトボランティアが企画したイベントの補助をします。

	活動日	募集	研修	任期
(1)	GT:毎週日曜日 研修:日曜日	隔年4～5月	年間12回 (うち新規メンバー向け7回)	1年間(更新有)
(2)	6月～3月の平日 研修:木曜日	毎年4～5月	年間10回	1年間(更新有)
(3)	毎月第3土曜日	随時	なし	1年間(更新有)
(4)	原則として毎月第2・4土曜日、イベント開催日	随時	なし	1年間(更新有)
(5)	年3回程度	イベントごと	なし	イベント当日限り

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数のべ2,400人
(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

〔目標設定の理由〕

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなります。
- ・少しずつ新たな担い手を迎え入れ、安定した活動をしています。
- ・ボランティアの活動内容を整理し、選択肢を明示したことにより、これからボランティア活動に参加しようとする方にとって、よりスタートを切りやすい環境が整えられたと考えています。
- ・プロジェクトボランティアの活動では、平日の活動がやや増えています。また近年、イベントへの一般参加者数は、スタッフの人数と会場のキャパシティからみて、安全に楽しむことのできる限界に近付いていると考えられます。
- ・ギャラリートークボランティアの第3期メンバーが研修を終え、本格的な活動を始めています。
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、26年度の目標は、のべ2,400人とします。

(市民ボランティア協働事業へののべ参加者数)

(単位：人)

	プロジェクトボランティアの活動		サポートボランティアの活動		計
	ボランティア	企画イベント参加者	ボランティア	ギャラリートーク参加者	
平成23年度	197	533	434	274	1,438
平成24年度	258	1,116	392	309	2,075
平成25年度	337	1,434	477	326	2,574

*プロジェクトボランティア

- ・美術館のイメージアップと美術館の利用を高めるため、自らイベントを企画実施するボランティア。
- ・主な活動は、市民等が参加し楽しめるボランティアイベントの開催。
- ・登録者数29名(平成26年3月末現在)

*サポートボランティア

- ・美術館が主催する活動に共感し、自身の知的欲求を充足しつつ美術館活動をサポートするボランティア。
- ・主な活動は、ギャラリートークの実施。ボランティアイベントやワークショップ、小学校美術館鑑賞会の補助。
- ・登録者数50名(平成26年3月末現在)

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
 - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
-

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1 展覧会事業

国内外の優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

- (1) 企画展・・・幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。夏に子ども向け、秋に多くの人が親しみやすいテーマ展を準備しています。また、すぐれた日本近代美術、現代美術、デザインの展覧会の他、毎年開催している「児童造形作品展」を予定しています。
 - i 東京国立近代美術館工芸館巡回展 アール・ヌーヴォーとアール・デコー
20世紀ヨーロッパのデザインと工芸
4月26日(土)～6月29日(日)
 - ・ヨーロッパで生まれたデザイン様式、アール・ヌーヴォーとアール・デコ。東京国立近代美術館工芸館のコレクションから、これらの作品約100点をご紹介します。
 - ii こどもと美術を楽しみたい！ キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展
7月12日(土)～8月31日(日)
 - ・井上涼、重田佑介、tupera tupera、西村正徳、ミロコマチコらによる参加・体験型の展覧会。近作・新作で構成し、大人もこどもも楽しめます。
 - iii おいしいアート 食と美術の出会い展
9月13日(土)～11月3日(月・祝)
 - ・美術の歴史をたどると「食」にまつわる作品が、数多く残されています。西洋美術の伝統的な主題から、日本の現代アートまで、多彩な「食」の表現をご紹介します。
 - iv 小林孝亘展—私たちを夢見る夢
11月15日(土)～12月23日(火・祝)
 - ・具象絵画に新風を吹き込み、日本の現代美術を牽引してきた画家・小林孝亘の展覧会。各時代の代表作に加え、新作を発表します。また、小林の撮影した写真や、資料もあわせて展示し、制作の秘密に迫ります。

v 児童生徒造形作品展

平成 27 年 1 月 10 日（土）～1 月 26 日（月）

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護、すべての学校園の子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約 3,000 点を展示します。

vi 生誕 110 年 海老原喜之助展—エスプリと情熱

2 月 7 日（土）～4 月 5 日（日）

- ・若くして渡仏し、エコール・ド・パリの次世代画家として注目された海老原喜之助。詩情あふれる作品群や戦後の力強い代表作に加え、近年発見された膨大なデッサンも展示する、首都圏では 24 年ぶりの大回顧展。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展・・・年 4 回開催

- | | |
|---------------|-----------------------------------|
| i 第 1 期所蔵品展 | 4 月 12 日（土）～ 6 月 22 日（日） |
| ii 第 2 期所蔵品展 | 6 月 28 日（土）～9 月 21 日（日） |
| iii 第 3 期所蔵品展 | 9 月 27 日（土）～12 月 14 日（日） |
| iv 第 4 期所蔵品展 | 12 月 20 日（土）～ 平成 27 年 4 月 19 日（日） |

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

- | | |
|--|---------------------|
| (1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 | 7 回 |
| 展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。 | |
| ・開催：土日 | 定員：各 70 名程度（先着制） |
| (2) ワークショップの開催 | 6 回 |
| 美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。 | |
| ・展覧会に関連したワークショップ | 3 回 |
| ・大人向けワークショップ | 3 回 |
| ・開催：土日 | 定員：各 20 名程度（事前申込制） |
| (3) 映画上映会の開催 | 2 回 |
| 優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会（シネマパーティー）を開催します。 | |
| ・開催：年 2 回 | 定員：25 名× 2 回（事前申込制） |
| (4) 学芸員による企画展ギャラリートーク | 10 回 |
| 展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。 | |
| ・企画展毎に 1、2 回程度 | 開催：土日（当日自由参加） |
| (5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 | 随時 |
| 学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。 | |

3 美術図書室運営事業

美術図書等約2万6千冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

(1) 所蔵図書の充実

- ・一般的な美術書に加え、企画展に関連する書籍や子供向けの絵本、貴重な美術雑誌（古書）などを購入し、蔵書の充実を図ります。
- ・古書の補修および修復をし、保存に適した状態にします。

(2) 美術に関する情報提供

- ・来館者が利用できる端末機を設置し、図書室の蔵書を検索できるようデータベースを随時更新します。
- ・企画展の開催に併せた関連図書の紹介を行います。

【達成目標】 企画展の満足度（補正值）80%以上

[目標設定の理由]

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しています。同じ方法の調査を継続的に行っており、目標は25年度実績見込みを上回る80%としました。

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
企画展満足度	80.6%	80.9%	77.2%

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
 - ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催する。
 - ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
 - ・所蔵図書資料を充実させる。
 - ・多くの方が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。
 - ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。
-

[目標設定の理由]

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても

広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

【事業計画】

学校との連携

- 1 「アーティストと出会う会」(中学生、高校生) 2回
活躍する現役アーティストが、こども時代の夢や取り組みなどを紹介し、中高学生の将来への夢や希望を美術の側面から支援することができるような場を設けます。
- 2 中学生のための美術鑑賞教室の開催 14回
中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を開催します。
- 3 「美術鑑賞会」の受け入れ(市内全小学校6年生) 46回
市立の全小学校6年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。
- 4 出前授業の実施 随時
学校教育と連携し、美術館職員が学校に出向き、授業の中で美術館を活用した美術教育を実践する出前授業を実施します。
- 5 職業体験の受け入れ 随時
子どもたちが美術館での仕事を体験する職業体験の受け入れを行います。
- 6 学芸員実習の受け入れ 随時
- 7 教員のための研修 随時
美術館の所蔵作品やアートカード等の教材を活用した鑑賞教育についての研修を行います。

子どもたちへの美術館教育

- 1 ワークショップの開催 12回
子どもたちが美術に親しめるようなワークショップ事業を開催します。
 - ・展覧会関連ワークショップ、子ども向けワークショップ
開催：5月、10月、定員：40～60名程度(事前申込制)
 - ・未就学児ワークショップ
開催：3月 定員：40名程度(事前申込制)
- 2 映画上映会の開催 2回
気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会を開催します。
開催：夏 定員：なし(当日自由参加)
- 3 親子ギャラリーツアーの開催 4～5回
親子での美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツアーを開催します。
- 4 保育園との連携 20回

市立保育園 10 園と連携し、おもに年中・年長の児童に向けた鑑賞プログラムを実施します。園ごとに、学芸員による「出前プログラム」と来館時の「美術館ツアー」の二つを行います。

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

[目標設定の理由]

- ・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

平成 25 年度は、一定の質を保った美術展を年間を通してバランスよく行うことで、観覧者数が前年よりも増加しました。特に、「たいけん！ぼうけん！びじゅつかん！」展を親子向けと位置付け的確なアピールを行ったことや、市立保育園と連携した未就学児への鑑賞支援活動に積極的に取り組んだことが、中学生以下の観覧者数の増加に効果をあげたと考えられます。今年度も、この方向性を維持していくことを前提に、美術館でなければできない子ども向けの事業を行います。しかし、市全体の 14 歳以下の人口が減少していることや、平成 25 年度の実績なども踏まえたうえで、平成 26 年度の目標を 22,000 人としました。

(中学生以下の観覧者数)

(単位：人)

	幼児	小学生	中学生	計
平成 23 年度	4,041	14,442	4,285	22,768
平成 24 年度	4,314	11,464	3,881	19,659
平成 25 年度	5,358	11,819	4,119	21,296

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
- ・小学校鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。鑑賞会と連動した教材の共同開発と活用、出前授業の実施などを教員と協力しながら実施する。

[目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、表現としての造形教育に偏りがちでした。

近年の学習指導要領では、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成23年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。

学校教育ではできない、美術館だからこそできることは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

【事業計画】

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵する美術品約5,000点の管理を行います。

1 美術品の収集（購入予算は無、寄贈、寄託の受け入れ）

美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。

- (1) 横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
- (2) 横須賀・三浦半島を題材とした作品
- (3) 「海」を描いた作品
- (4) 日本の近現代を概観できる作品
- (5) その他、上記に関連ある国内外の優れた作品

寄贈、寄託の申込のあった作品について、当館の収集方針に合致するかを検討し、作品の来歴や状態を調査します。

収集方針に沿った作品について受入の可否を美術品評価委員会で審議いただき、委員会終了後、収集の承認を受けた作品について受入手続きを行います。

2 所蔵作品の管理（修復・額装及び作品の貸出）

作品の修復・額装について、作品の状態、展示計画などに即して適切に行います。

作品の貸出について、展覧会内容、会期、巡回先など内容を吟味した上で、適切に手続きを行います。

3 環境調査の実施 年2回

作品を保管する収蔵庫、保管庫およびその周辺（搬入口、荷受荷解室）について、環境調査を実施します。

4 美術品評価委員会の開催 年1回

美術品の収集について、専門的見地から審議いただく美術品評価委員会を開催します。

【達成目標】 環境調査の実施（年2回）

美術品評価委員会の開催（年1回）

〔目標設定の理由〕

購入費（基金）が充当されていないため、収集は寄贈に頼っている状況です。

寄贈される作品の質については、専門家による外部委員会である「美術品評価委員会」によってすでに保証されていますが、作品の収集は数量によって評価されるべきではありません。

作品の修復、額装等の処置についても、個々の事例に即して対処しているため、やはり数量的な評価に適していません。

作品の貸出は、依頼に応じて行う性格のものであり、また、作品保護の観点からも数量的な評価をすべきではないと考えます。

したがって、所蔵作品の管理と美術品の収集については達成目標を設けず、年2回の環境調査の実施と、年1回の美術品評価委員会の開催を達成目標とします。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
 - ・ 適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
 - ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
 - ・ 所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
-

[目標設定の理由]

・ すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

【事業計画】

1 運營業務

受託事業者との連携を図り、利用者にとって心地よいサービスを提供する。

- ・受託事業者との定期的なミーティング（運営事業者連絡会議一月1回、朝礼ー毎日）の実施による情報共有
- ・受託事業者からの業務日報や来館者アンケートに基づく課題の把握
- ・館内巡回による清掃状況及びスタッフ対応等の確認
- ・業務仕様書の見直しを行ない、受付展示監視業務受託者への接遇研修の義務化
- ・レストランと連携し、企画展ごとにコラボレーションメニューを提供
- ・モニタリングによるホスピタリティ調査の実施

2 維持管理業務

施設、設備の維持管理に努め、利用者にとって心地よい空間を提供する。

- ・中長期修繕計画の関係部局オーソライズ推進
- ・ミュージアムショップの空調設備改修
- ・案内サインの点検、見直し
- ・AEDの更新、及びAEDボックスの可視化
- ・屋外への簡易休憩場所設営の試行

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 91%以上
 - ・スタッフ対応の満足度 80%以上
-

[目標設定の理由]

- ・館内アメニティ満足度については、来館者が気持ちのよい時間を過ごしていることを示す指標であると考えます。21年度から、アンケートのなかに質問事項を加え、「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごすことができた」に対する満足度を指標（総合満足度）としています。
- ・館内スタッフとの連携を密にし、課題の把握と対策を図り、これまでの最高を超える 91% を目標としました。
- ・スタッフ対応の満足度については、来館者アンケート「スタッフの対応・案内は適切だった」に対する満足度です。
- ・館内スタッフとの定期的な情報交換を行うことで、これまでの最高を超える 80%を目標としました。

- ・スタッフ対応に関する来館者アンケートについては、24年度から今までの5段階評価に加え、よかった・よくなかったところを具体的に記述していただく欄を設け、原因を究明し改善策の検討を行い、満足度の向上に努めています。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
館内アメニティ満足度	90.4%	87.6%	88.8%
スタッフ対応の満足度	78.5%	79.1%	78.5%

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
 - ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
 - ・ 受託事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の1つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害によって老朽化の速度が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフは受託事業者ですが、市職員との緊密な連携を図り、一体となって、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際、買い物や食事をすることも、来館者の大きな楽しみです。民間事業者であるレストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

【事業計画】

- | | | |
|---|---|-----|
| 1 | 福祉活動講演会の開催
さわれる彫刻や絵画など、誰もが美術に親しめるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。 | 1回 |
| 2 | 障害者向けワークショップの開催
障害のある人を対象に、美術を楽しめるワークショップを開催します。 | 1回 |
| 3 | 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催
障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。 | 12回 |
| 4 | パフォーマンスの実施
誰もが様々な美術表現に親しめるよう、アーティストによるパフォーマンスを開催します。 | 1回 |
| 5 | 託児サービスの実施
1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向け、託児サービスを実施します。 | 16回 |

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数のべ 340 人

〔目標設定の理由〕

- 福祉関連の事業は、対象を限定すればするほど参加者数が減る傾向にあります。しかし一方で、対象を限定した事業展開こそ必要な分野でもあります。
- 上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去2年間の参加者の平均値から算出した340人を平成26年度の目標値としました。

(福祉関連事業への参加者数)

(単位：人)

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
講演会	22	29	29
ワークショップ	22	19	26
みんなのアトリエ	111	169	214
その他	0	55	149
計	153	272	418

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
 - ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

【事業計画】

- ・エネルギーの消費管理を行い、省エネ対策を推進します。
- ・サービスを低下させず、経営的な視点で委託業務の業務内容の見直しを行う。
- ・四半期毎に消費エネルギーの数値等を職員全員に周知し、コスト意識の啓発を図ります。

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数、公用車走行距離を前年度以下とする。

[目標設定の理由]

- ・美術館の総事業費の約 12.9%を占める電気料、水道使用料、下水道使用料は、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができる目標として、引き続き電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数、公用車走行距離を、最終的に前年度実績以下とすることを目標とします。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度 目標
総電気使用量 (kwh)	2, 525, 376	2, 559, 600	2, 571, 895	2, 571, 000
電気使用量 (昼間) (kwh)	1, 744, 038	1, 696, 578	1, 754, 173	1, 754, 000
電気使用量 (夜間) (kwh)	781, 338	863, 022	817, 722	817, 000
水道使用量 (m ³)	4, 426	4, 227	4, 055	4, 000
事務用紙使用枚数 (枚)	244, 176	216, 595	209, 241	209, 000
公用車走行距離 (km)	4, 921	4, 756	4, 413	4, 400

【実施目標】 職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

[目標設定の理由]

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

横須賀美術館 平成26年度予算

◎横須賀美術館の使命・目標別 歳出予算 単位:千円

使命・目標	H26		H25
	当初予算	前年度比	当初予算
I 美術を通じた交流を促進する	9,811	4,047	5,764
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。	9,235	4,040	5,195
展覧会の実施	③に掲載		
広報・集客促進事業	9,235	4,040	5,195
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。	576	7	569
II 美術に対する理解と親しみを深める	92,136	17,822	74,314
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。	85,594	18,203	67,391
展覧会事業	77,941	18,206	59,735
教育普及事業	3,185	△ 84	3,269
美術図書室運営事業	4,468	81	4,387
④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。	1,713	△ 351	2,064
学校との連携	477	△ 309	786
子どもたちへの美術館教育	1,236	△ 42	1,278
⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。	4,829	△ 30	4,859
III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する	227,752	16,978	210,774
⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。	226,207	16,914	209,293
運営事業	0	0	0
維持管理業務	226,207	16,914	209,293
⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。	1,545	64	1,481
⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って、効率的に運営・管理する。	0	0	0
合 計	329,699	38,847	290,852

◎美術館費全体の予算 単位:千円

		H26		H25
		当初予算	前年度比	当初予算
歳入合計(A)		71,085	12,235	58,850
観覧料		40,971	6,423	34,548
駐車場使用料		12,695	352	12,343
その他(図録販売等)		17,419	5,460	11,959
歳出合計(B)		439,082	36,375	402,707
給与費	職員給料、非常勤職員報酬、委員報酬、社会保険料等	109,383	△ 2,472	111,855
展覧会事業	展覧会の開催に要する経費	77,941	18,206	59,735
教育普及事業	教育普及活動に要する経費	7,019	△ 364	7,383
美術品収集管理事業	収集保存管理に要する経費	4,829	△ 30	4,859
運営事業	広報、地域連携、図書室の運営、パンフレット印刷物制作など館全体の運営に要する経費	13,703	4,121	9,582
管理事業	維持管理に要する経費	226,207	16,914	209,293
差引(B-A)		367,997	24,140	343,857